

こたえ 星の銀貨^{ぎんか}はってん
発展 ③星の銀貨^{ぎんか}

(グリムの話)

昔、両親をなくした、まずしい女の子がいました。持っているものは、着ている服と、パンが一切れだけでした。

女の子が野原を歩いていると、おなかをすかせた男の人に会いました。女の子は、パンをあげました。

次に、寒さにふるえる子どもに、ぼうしをあげました。また次の子どもには、上着をあげました。

夜になり、森に着いたとき、女の子には、ほとんど何もこのつていませんでした。

すると、空から星がふつてきて、ぴかぴかの銀貨^{ぎんか}になりました。女の子は、それから一生、こまることなくくらしただけのことです。

女の子のやさしい心が、星にとどいたのかもしれない。

1 さいしよに女の子が持っていたものに、入っていないものはどれですか。

ア 着ている服

イ パン

ウ お金

2 おなかをすかせた男の人に、女の子は何をあげましたか。



3 女の子は、どんな人だと言えますか。

自分がこまっていたても、人にやさしくできる人。

4 空から星がふつてきたのは、どうしてだと思いますか。

女の子が、持っているものを人に分けあたえたから。

おうちの方へ

- 4は、女の子のやさしさと結びつけて書けていれば正解です。